

The <WOOD + GLASS> SCHOOL in AFRICA

サブサハラアフリカの貧困国の中でも、とくに支援の届きにくい遠隔地において、劣悪な初等教育環境の改善を目的とした、ガラス質と木質を組み合わせることによる、ぬくもりとあかりに満ちあふれた快適な学校を提案する。

CONCEPT

ユネスコの提唱した、すべての児童に教育へのアクセスを提供するという野心的な目標は、その期限である2015年を3年後に控えた今日に至っても達成のめどは立っていない。当事国と援助国の支援の手は、財政危機により緊縮化が進み、サブサハラアフリカの農村部においては、今なおコミュニティの手による自助努力の学校建設が不可欠な要素となっているが、土壁と簡素な柱とによる仮設「学校」は、わずかな開口、狭小で不十分な換気、泥土の汚れ等による劣悪な

のが現状で、結果として貴重な児童の学習機会を奪っている。



SITUATION



主構造兼外装材として等しい寸法を持つ形状のガラスブリックおよび木レンガを用い、特殊な接着剤と緊結材にて固定する。基本は組石造であり、現地住民が日干し煉瓦で慣れ親しんでいる工法のため、最低限の訓練で子供も含め自力施工が可能である。また、両レンガの組み方のパターンはランダムで自由度が高く住民自らが設計者にもなる。

SOLUTION

1. Workshop



建設に先立ち、コミュニティのニーズ把握と、プロジェクトの目的および学校教育の重要性、運営手法などを共有する。

2. Transportation



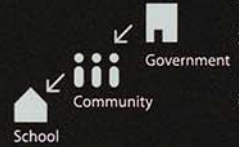
資材はすべてコンテナに建設セットとして詰めて海上～陸路で対象地域へと運搬され、現場での施工作業は最小限にとどめられる。

3. Construction



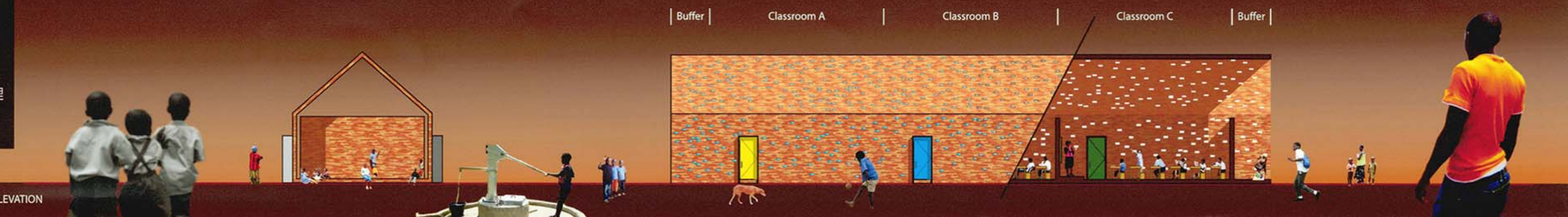
技術者は、初期トレーニングおよび定期的な管理とし、基本的に施工はコミュニティの主導および労働力の提供によりまかなわれる。

4. Operation



予備資材も一定数確保し、事後の運営管理は行政の指導の下コミュニティのオーナーシップのもと管理委員会、PTA等にゆだねられる。

PROCESS



ELEVATION